

平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月31日

上場取引所 東 名

上場会社名 JXホールディングス株式会社

コード番号 5020 URL <http://www.hd.ix-group.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松下功夫

問合せ先責任者 (役職名) 財務IR部IRグループマネージャー (氏名) 鈴木隆次

TEL 03-6275-5009

四半期報告書提出予定日 平成26年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満を四捨五入して表示しています)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	2,640,850	△4.8	2,707	△95.0	14,850	△79.5	14,157	△60.3
26年3月期第1四半期	2,773,797	8.7	53,606	—	72,465	—	35,671	—

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 5,754百万円 (△94.3%) 26年3月期第1四半期 100,083百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	5.69	—
26年3月期第1四半期	14.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第1四半期	7,698,057	2,590,904	27.4
26年3月期	7,781,775	2,626,294	27.4

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 2,108,439百万円 26年3月期 2,135,058百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	8.00	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,700,000	△1.3	10,000	△92.8	45,000	△74.4	30,000	△66.6	12.07
通期	12,050,000	△2.9	175,000	△18.1	245,000	△19.0	120,000	12.1	48.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想に関する事項については、本日発表の「連結業績予想の修正に関するお知らせ」及び添付資料の4ページをご参照ください。

なお、在庫影響(*)を除いた利益相当額(予想)は、以下のとおりです。

	営業利益	(対前期増減率)	経常利益	(対前期増減率)
在庫影響を除いた利益相当額(予想) 第2四半期(累計)	30,000百万円	(△59.9%)	65,000百万円	(△41.7%)
通 期	200,000百万円	(111.9%)	270,000百万円	(47.5%)

(*)総平均法によるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期1Q	2,495,485,929 株	26年3月期	2,495,485,929 株
② 期末自己株式数	9,012,346 株	26年3月期	8,981,945 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2,486,485,769 株	26年3月期1Q	2,486,571,977 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

(1) マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化

(2) 法律の改正や規制の強化

(3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

※ 当社は、以下のとおり投資家向け説明会を電話会議方式で開催する予定です。この説明会で使用する資料等につきましては、決算発表と同時に当社ウェブサイトにて掲載する予定です。

・平成26年7月31日（木）・・・・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

※ 上記説明会のほかにも、個人投資家向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等につきましては、当社ウェブサイトをご確認ください。

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

全般

当第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年6月30日）の世界経済は、米国経済が堅調に推移し、欧州経済も持ち直しの動きが継続するなど、緩やかな回復が続きました。

わが国経済については、消費税増税前の駆け込み需要の反動はあるものの、企業収益の改善や設備投資が増加するなど、総じて緩やかな回復基調を辿りました。

同期間における原油価格（ドバイ原油）は、期初のバーレル当たり104ドルから、105ドルを挟んだ小幅の値動きとなりましたが、6月に入りイラク情勢の緊迫化を受け上昇し、期末では109ドル、期平均では前年同期比5ドル高の106ドルとなりました。

銅の国際価格（LME〔ロンドン金属取引所〕価格）は、中国の信用不安問題等を背景に、総じて低位で推移しました。期初はポンド当たり301セント、期末は315セント、期平均では前年同期比16セント安の308セントとなりました。

円の為替相場は、期初の103円から横這いで推移し、期末では101円、期平均では前年同期比3円安の102円となりました。

こうした状況のもと、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は前年同期比4.8%減の2兆6,409億円、経常利益は前年同期比79.5%減の149億円となりました。

なお、在庫影響（総平均法によるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響）を除いた経常利益相当額は、前年同期比69.1%減の129億円となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりです。

エネルギー

国内石油製品需要については、ガソリンは消費税増税前の駆け込み需要の反動を受け、また電力向け重油・原油は、LNG火力発電所が稼働増となるなど、前年同期に比べ減少しました。

国内石油製品マージンは、石油製品需要の構造的な減少が進行する中、室蘭製油所の原油処理停止など、エネルギー供給構造高度化法[※]への対応に向けた余剰精製設備削減の動きを反映し、前年同期を上回る水準となりました。一方、石油化学製品のマージンは、中国経済の減速を背景に、主力製品であるパラキシレンを中心に、前年同期を下回る水準となりました。

なお、在庫影響（総平均法によるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響）による会計上の利益は18億円となりました。（前年同期比276億円の損益悪化要因）

こうした状況のもと、エネルギー事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は前年同期比6.8%減の2兆2,329億円、経常損益は243億円の損失（前年同期は261億円の利益）となりました。在庫影響を除いた経常損益相当額は261億円の損失（前年同期は33億円の損失）となりました。

※ エネルギー供給構造高度化法：化石燃料の有効利用を促進させるため、石油事業者に対して重質油分解装置の能力を原油の精製能力に対して一定以上の比率に引き上げることを義務付ける法律

石油・天然ガス開発

原油及び天然ガスの生産については、油田・ガス田の自然減退が見られる中、安定した生産に努め、前年同期並みの数量となりました。また、暦年ベースの販売価格についても、原油市況の変動が小幅

であったことなどにより、概ね前年同期並みの水準で推移しました。

開発・生産事業については、平成26年5月に、オペレーターとして権益を保有するマレーシア・サラワク沖SK10鉱区のラヤン油ガス田について、マレーシア国営石油会社ペトロナスより同油ガス田開発計画の承認を受け、平成28年の生産開始に向けて開発段階に移行することを決定しました。また、同年5月に、Nippon Papua New Guinea LNG LLCを通じて参画するパプアニューギニアのPNG LNGプロジェクトは、LNGの第1船を出荷しました。これにより、PNG LNGプロジェクトは、開発段階を経て操業段階へと移行し、今後長期にわたってパプアニューギニアの天然ガス資源を、日本をはじめとするアジア市場へ安全かつ安定的に供給して参ります。

こうした状況のもと、石油・天然ガス開発事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は前年同期比13.6%増の548億円、経常利益は前年同期比35.5%減の200億円となりました。

金属

資源開発事業については、銅価が前年同期に比べ下落したことから、前年同期を下回る利益水準となりました。

銅製錬事業については、電気銅価格は、銅のLME価格の下落の影響により前年同期を下回る水準で推移しました。電気銅の販売量は、輸出の増加を主因に前年同期に比べ増加しました。また、銅鉱石の買鉱条件は前年同期に比べて改善しました。

電材加工事業については、各製品の販売量は、スマートフォン等のIT分野での需要増を背景に、概ね前年同期を上回りました。

環境リサイクル事業については、貴金属の各製品価格は、金属価格の下落を主因に概ね前年同期を下回りました。集荷量は、前年同期に比べ、銅、貴金属ともに増加しました。

チタン事業については、製品販売量は、昨年度より続く需要先での在庫調整の影響等により、前年同期並みとなりました。

こうした状況のもと、金属事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は前年同期比6.1%増の2,682億円、経常利益は前年同期比3.3%減の97億円となりました。

その他

その他の事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は前年同期比12.4%増の1,022億円、経常利益は前年同期比143.1%増の74億円となりました。

建設事業については、公共工事が堅調に推移し、民間設備投資も持ち直しの動きが見られたものの、労務費や原材料価格の上昇などの影響もあり、依然として厳しい経営環境が続いています。こうした状況下、技術の優位性を活かした受注活動やアスファルト合材などの製品販売の強化に努めるとともに、コスト削減・業務効率化による収益力の向上に努めています。

上記各セグメント別の売上高には、セグメント間の内部売上高172億円（前年同期は150億円）が含まれています。

特別損益及び四半期純利益

特別利益は、固定資産売却益237億円等により、合計で257億円となりました。

また、特別損失は、減損損失70億円、固定資産除却損20億円等により、合計で101億円となりました。

以上の結果、税金等調整前四半期純利益は304億円となり、法人税等119億円、少数株主利益43億円を差し引き、四半期純利益は142億円（前年同期比60.3%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

- ① 資産 当第1四半期末における資産合計は、前期末比837億円減少の7兆6,981億円となりました。
- ② 負債 当第1四半期末における負債合計は、前期末比483億円減少の5兆1,072億円となりました。有利子負債残高は、前期末比809億円増加の2兆8,826億円となりました。
- ③ 純資産 当第1四半期末における純資産合計は、前期末比354億円減少の2兆5,909億円となりました。

なお、自己資本比率は前期末と同水準の27.4%、1株当たり純資産額は前期末比10.7円減少の847.96円、ネットD/Eレシオ（ネット・デット・エクイティ・レシオ）は前期末比0.05ポイント悪化し1.23倍となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

前回（平成26年5月9日）発表した、通期の連結業績予想を以下の通り修正します。

本連結業績予想は、通期平均で、円の対米ドル相場；101円、原油価格（ドバイ原油）；バーレル当たり105ドル、銅の国際価格（LME価格）；ポンド当たり317セントを前提としています。

（前回予想：円の対米ドル相場；100円、原油価格；バーレル当たり100ドル、銅の国際価格；ポンド当たり320セント）

前回予想と比較して、原油価格が上昇することなどから、売上高は12兆500億円（前回予想比3,300億円の増収）となる見込みです。

また、原油価格の上昇に伴い、在庫影響による損失が縮小することなどにより、営業利益は1,750億円（前回予想比300億円の増益）、経常利益は2,450億円（前回予想比350億円の増益）、当期純利益は1,200億円（前回予想比100億円の増益）となる見通しです。

なお、この連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいています。実際の業績は様々な要因により予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

配当については、当四半期においては、前回予想（年間配当16円/株〔中間配当8円/株、期末配当8円/株〕）からの修正はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の算定方法を変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しています。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が29,666百万円増加し、利益剰余金が18,676百万円減少しています。なお、当第1四半期連結累計期間の連結損益計算書に与える影響は軽微です。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	281,733	290,294
受取手形及び売掛金	1,401,114	1,103,567
たな卸資産	1,797,189	1,930,242
その他	287,744	270,673
貸倒引当金	△2,196	△1,328
流動資産合計	3,765,584	3,593,448
固定資産		
有形固定資産		
土地	960,203	959,132
その他(純額)	1,428,988	1,449,632
有形固定資産合計	2,389,191	2,408,764
無形固定資産	132,679	129,665
投資その他の資産		
投資有価証券	713,646	745,765
その他	791,043	831,003
貸倒引当金	△10,368	△10,588
投資その他の資産合計	1,494,321	1,566,180
固定資産合計	4,016,191	4,104,609
資産合計	7,781,775	7,698,057

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	884,486	778,893
短期借入金	1,079,713	1,141,594
コマーシャル・ペーパー	450,000	454,000
1年内償還予定の社債	30,480	20,480
未払金	687,043	633,599
引当金	32,916	16,424
その他	290,250	293,875
流動負債合計	3,454,888	3,338,865
固定負債		
社債	187,480	202,480
長期借入金	1,054,020	1,064,080
引当金	74,756	75,009
退職給付に係る負債	89,357	116,736
資産除去債務	86,763	102,444
その他	208,217	207,539
固定負債合計	1,700,593	1,768,288
負債合計	5,155,481	5,107,153
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	746,711	746,711
利益剰余金	1,119,478	1,095,106
自己株式	△3,893	△3,901
株主資本合計	1,962,296	1,937,916
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,312	63,572
繰延ヘッジ損益	5,551	3,871
為替換算調整勘定	113,204	100,837
退職給付に係る調整累計額	2,695	2,243
その他の包括利益累計額合計	172,762	170,523
少数株主持分	491,236	482,465
純資産合計	2,626,294	2,590,904
負債純資産合計	7,781,775	7,698,057

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	2,773,797	2,640,850
売上原価	2,589,017	2,504,378
売上総利益	184,780	136,472
販売費及び一般管理費	131,174	133,765
営業利益	53,606	2,707
営業外収益		
受取利息	895	701
受取配当金	7,122	5,720
為替差益	—	1,211
持分法による投資利益	13,435	9,655
その他	8,487	6,017
営業外収益合計	29,939	23,304
営業外費用		
支払利息	6,171	6,186
為替差損	1,377	—
その他	3,532	4,975
営業外費用合計	11,080	11,161
経常利益	72,465	14,850
特別利益		
固定資産売却益	7,906	23,666
その他	735	2,023
特別利益合計	8,641	25,689
特別損失		
固定資産売却損	284	64
固定資産除却損	2,492	2,018
減損損失	653	7,046
用船契約解約金	1,824	—
その他	2,782	1,020
特別損失合計	8,035	10,148
税金等調整前四半期純利益	73,071	30,391
法人税等	32,008	11,938
少数株主損益調整前四半期純利益	41,063	18,453
少数株主利益	5,392	4,296
四半期純利益	35,671	14,157

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	41,063	18,453
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	711	12,598
繰延ヘッジ損益	6,407	△1,649
為替換算調整勘定	44,020	△17,590
退職給付に係る調整額	—	△392
持分法適用会社に対する持分相当額	7,882	△5,666
その他の包括利益合計	59,020	△12,699
四半期包括利益	100,083	5,754
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81,942	6,826
少数株主に係る四半期包括利益	18,141	△1,072

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前連結会計年度(平成25年4月1日～平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	エネルギー	石油・天然 ガス開発	金属	その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高							
外部顧客への売上高	2,394,619	48,239	252,159	78,780	2,773,797	-	2,773,797
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,174	-	728	12,122	15,024	△15,024	-
計	2,396,793	48,239	252,887	90,902	2,788,821	△15,024	2,773,797
セグメント利益又は損失(△)	26,101	31,049	10,073	3,026	70,249	2,216	72,465

(注1) セグメント利益又は損失の調整額2,216百万円には、各報告セグメント及び「その他」の区分に配分していない
 全社収益・全社費用の純額2,142百万円が含まれています。

(注2) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っています。

II 当連結会計年度(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	エネルギー	石油・天然 ガス開発	金属	その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
売上高							
外部顧客への売上高	2,230,976	54,781	267,572	87,521	2,640,850	-	2,640,850
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,906	-	642	14,646	17,194	△17,194	-
計	2,232,882	54,781	268,214	102,167	2,658,044	△17,194	2,640,850
セグメント利益又は損失(△)	△24,345	20,020	9,741	7,357	12,773	2,077	14,850

(注1) セグメント利益又は損失の調整額2,077百万円には、各報告セグメント及び「その他」の区分に配分していない
 全社収益・全社費用の純額2,057百万円が含まれています。

(注2) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っています。